

團隊研究

T N 生

余は昨年より大いに水彩畫の趣味をさとり、ど一か是れを學ばんと思ひしに、未だ小學校のことなれば水彩畫等の科目はなし、されば師にたよること能ずして獨習をこゝろみんとて、大下藤次郎先生著の水彩畫階梯其他の書物並びに『みづゑ』等をもと

め是れらを讀しを毎月の樂みにせり、其上團隊をつくり、作品の批評繪畫上の講義等なすは大なる益ありと知り、こゝに有志者五名相會し一つの研究會を開きたり、これ秋楓會にして、日曜休日を利用して會員一同スケッチに行き、是れを清書し、各々批評し、惡しき所を直し、又わからぬ所は質問録なるものをつくりて銘々の考を誌し、又研究録なるものをつくりこれに繪畫上自身の經驗したる所を録す、而して吾等は此會の發達を祈りつゝあり。

スケッチしたものを描き直すことは初學者には大禁物である、寧ろ其場處で叮嚀に寫すやうになさい、其時間がないのなら短い時間で寫せる簡單なものを寫生し

て、眞面目に研究して往かねば進歩しません、スケッチは其儘であればこそ面白い味もあり其時の感情も現はれるのであります(編者)

己の特色を知れ

私尾寒月

僕も拙い乍ら水彩繪具を、いぢつて居る者だが、どうも僕の描いた繪はまづい様に思はれてならない。友人や他の人のを見れば何れも特色があつてよい。僕の繪はどうしてこんなにも拙からう、どうかして、よい繪を描きたいものだと思つて悶へた。それでも僕を友人が見て、君の繪には特色があると云ふ、然し僕には解せぬ。

去年の秋『みづゑ』の第二十九回繪葉書競技會へ、何等を得るかと試に久保田榮作として匿名にて投書したら幸に十四等を得た。競技會の記事を見たら、こんな事がある。……久保田の諸氏は同一筆法にして、其の色も殆ど似通へり、希くは他人の眞似を爲給ふ事なく、自然に向つて忠實に其の色を研究し、各自の特色を出されん事を望

む。とあり、僕の迷霧は此の時すつかりはれた。

大下先生に謝す。

僕のような感じを持つ人は僕ばかりでは無からう。みづゑ讀者の中にも多數あるだらうと思はれる、諸君、諸君の特色を知られよ、然してそれを、發輝せられん事を、

前號肉筆繪畫交換に就てのうち第二項を左の通り訂正致候。

二、各會員はスケッチブック(大さ中形位)の卷頭に自己の住所姓名雅號會員番號を明記したるもの一部を、第一會員は第二に、第二は第三といふ如く以下順次に發送し、末位の會員は第一會員に發送せらるゝ事(相陽二葉)

轉居

本郷區駒込神明町十四番地へ

丸山 晚霞